

静岡経済研究所

NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所
 理事長 鈴木一雄
 静岡市葵区追手町 1-13
 TEL054-250-8750

平成 27 年 4～6 月期 静岡県内主要産業の四半期見通し

現在（平成 27 年 1～3 月期）の業況

県内産業（主要20業種）の現在（平成27年1～3月期）の業況は、『好調』が「工作機械」1業種、『順調』が「情報サービス」1業種、『普通』が4業種、『低調』が13業種、『不調』が1業種となった。

平成 27 年 4～6 月期の見通し

「情報サービス」、「人材派遣」の2業種が『やや上昇』、残る18業種で『横ばい』見通しとなった。昨年の消費税率引上げを前にした駆け込み需要の反動減が収まり、賃上げ気運の高まりもあって、県内産業景気は回復に向けて動き出したとみられる。

調査項目 業種	業界景気	
	現況 (1～3月)	見通し (4～6月)
製茶	● → ●	● → ●
食品・飲料	● → ●	● → ●
家庭紙	○ → ○	○ → ○
産業用紙	● → ●	● → ●
工作機械	☀ → ☀	☀ → ☀
民生用電器部品	○ → ○	○ → ○
自動車部品	● → ●	● → ●
二輪車部品	☂ → ☂	☂ → ☂
建設	○ → ○	○ → ○
住宅	● → ●	● → ●
大型小売店	● → ●	● → ●
食品スーパー	● → ●	● → ●
自動車販売	● → ●	● → ●
家電量販店	● → ●	● → ●
運輸・倉庫	● → ●	● → ●
情報サービス	○ ↗ ☀	☀
外食	● → ●	● → ●
観光・レジャー	● → ●	● → ●
リース	● → ●	● → ●
人材派遣	○ ↗ ○	○

担当：出版担当 岩間 晴美、望月 毅

賃上げ気運の高まりから、4～6月期は上向きに

昨年4月の消費税率引上げを前にした駆け込み需要の反動がようやく収まりつつあり、4～6月期の県内産業景気は、上向きに動き出す兆しがみられる。大手企業の昇給に引っ張られて中小企業でも賃上げ気運が高まっており、個人消費の回復が景気をけん引していく気配が感じられる。初夏の観光シーズン入りでレジャー需要の盛り上がりにより、さらに明るいムードが広がれば、景気浮揚に向けて動き出しそう。

(1) 業界景気の現況について

県内産業（主要20業種）の現在（平成27年1～3月期）の業況は、『好調』が「工作機械」1業種、『順調』が「情報サービス」1業種、『普通』が「家庭紙」、「民生用電器部品」、「建設」、「人材派遣」の4業種、『低調』が「食品・飲料」、「産業用紙」など13業種、『不調』が「二輪車部品」1業種となった。

前回（平成26年12月）調査との比較では、主力のアジア向けが伸びた「工作機械」が『順調』から『好調』に1ランク上昇し、その他の19業種は前回から横ばいであった。

(2) 業界景気の見通しについて

平成27年4～6月期の景気見通しは、主要20業種のうち、『やや上昇』が2業種で、残る18業種は『横ばい』見通しとなった。

『やや上昇』と見込まれるのは、マイナンバー関連のソフト開発需要が本格化し、繁忙が続くとみられる「情報サービス」と、営業、販売、製造、IT分野で需要が旺盛な「人材派遣」の2業種。

一方、『横ばい』の18業種のうち、『好調』が続くのが、アジア需要が引き続き堅調に推移し、内需も底堅い「工作機械」1業種。

価格修正が浸透しつつある「家庭紙」、家庭用エアコン、冷蔵庫の生産水準が前年を上回るとみられる「民生用電器部品」、公共工事、民間工事ともに仕事量が回復してきた「建設」の3業種が、『普通』のまま『横ばい』の見通し。

また、新茶の生育状況は順調ながら相場は弱含みの「製茶」、販売量が伸び悩む「食品・飲料」、円安や原料の古紙不足でコストがかさむ「産業用紙」、消費税率引き上げ後も受注残を抱えていた前年の水準には届かないとみられる「自動車部品」、「自動車販売」、貸家に供給過剰感のある「住宅」、消費マインドの回復が期待されるものの、円安や消費税アップなどによる商品単価上昇の影響が色濃い「大型小売店」、「食品スーパー」、前年の水準は上回るものの、取扱い量や客数が伸び悩む「家電量販店」、「運輸・倉庫」、「外食」、北陸新幹線の開通などにより他地域との競争が激しくなりそうな「観光・レジャー」、環境関連需要が落ち着き前年並みの水準が続く「リース」の13業種が、『低調』で『横ばい』の見通し。

さらに、生産規模が縮小してきた「二輪車部品」は、『不調』のまま『横ばい』の見込み。

静岡県内産業の四半期ごとの業界景気の『現況』と『見通し』推移

年次		平成24年			平成25年				平成26年				平成27年
四半期		II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I (今回調査)
対象月(○は調査月)		4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③
業界景気の『現況』	好調 ☀	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	順調 ○	1	0	0	0	1	2	4	5	1	1	2	1
	普通 ☾	4	4	3	2	1	3	6	7	5	5	4	4
	低調 ☁	11	12	15	16	17	14	9	6	13	13	13	13
	不調 ☂	4	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1
	全業種の平均階級値	2.10	2.00	2.05	2.00	2.10	2.30	2.65	2.95	2.30	2.30	2.35	2.40
好調：5													
順調：4													
普通：3													
低調：2													
不調：1													
業界景気の『見通し』	上昇 ↗	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	やや上昇 ↗	0	0	1	1	2	2	5	0	1	2	0	2
	横ばい →	17	16	19	18	17	17	15	12	19	18	20	18
	やや下降 ↘	3	4	0	1	1	0	0	4	0	0	0	0
	下降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(3月調査であれば1~3月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(3月調査であれば4~6月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。
 調査時点…平成27年3月初旬
 回答企業…県内主要20業種(132社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、半期調査業種を除く20業種の平均値。

平成 27 年 4 ～ 6 月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気		静岡県内主要産業の見通し									
	現況 (1～3月)	見通し (4～6月)	生産量 (前1～3月期 対比伸び率)	売上高 (前1～3月期 対比伸び率)	生産量 (前年 同期比 伸び率)	売上高 (前年 同期比 伸び率)	操 業 度	需 給 バ ラ ン ス	製 品 在 庫 水 準	原 材 料 価 格 の 動 向 (前1～3月期 対比)	製 品 価 格 の 動 向 (前1～3月期 対比)	受 注 残 (ヵ月)
製茶	☁ → ☁	☁	—	—	—	→	○	供給超過	過多	→	→	—
食品・飲料	☁ → ☁	☁	→	→	↗	↗	○	均衡	適正	→	→	0.5～1.0
家庭紙	☉ → ☉	☉	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	0.1～1.0
産業用紙	☁ → ☁	☁	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	0.1～1.0
工作機械	☀ → ☀	☀	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	1.5～7.0
民生用電器部品	☉ → ☉	☉	↗	↗	↗	↗	○	均衡	適正	→	→	0.3～3.0
自動車部品	☁ → ☁	☁	↘	↘	↘	↘	○	均衡	適正	→	→	0.1～1.5
二輪車部品	☂ → ☂	☂	↘	↘	→	→	◇	均衡	適正	→	→	1.0～3.0
建設	☉ → ☉	☉	—	↗	—	↗	◎	均衡	適正	→	→	3.0～9.0
住宅	☁ → ☁	☁	—	↗	—	→	◎	供給超過	適正	→	→	1.0～6.0
大型小売店	☁ → ☁	☁	—	↘	—	↗	—	供給超過	適正	→	→	—
食品スーパー	☁ → ☁	☁	—	→	—	↗	—	供給超過	適正	→	→	—
自動車販売	☁ → ☁	☁	—	↘	—	↗	—	供給超過	適正	→	→	—
家電量販店	☁ → ☁	☁	—	→	—	↗	—	均衡	適正	→	→	—
運輸・倉庫	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	○	均衡	—	↗	→	—
情報サービス	○ ↗ ☀	☀	—	→	—	↗	◎	需要超過	—	→	→	—
外食	☁ → ☁	☁	—	↗	—	↗	—	均衡	—	→	→	—
観光・レジャー	☁ → ☁	☁	—	↗	—	↘	—	供給超過	—	→	→	—
リース	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	—	—	—	—	—	—
人材派遣	☉ ↗ ○	○	—	→	—	→	○	需要超過	—	→	→	—

表の見方と注意

業界景気の現況 見通し	業界景気の見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操業度	需給バランス	製品在庫水準
好調 ☀	上昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少
順調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需要超過	過少
普通 ☉	横ばい →	横ばい → (+2～△2%) →	79～70% ◇	均衡	適正
低調 ☁	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ◐	供給超過	過多
不調 ☂	下降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多

主要業種の現況と4～6月期の景況見通し

業種	業界天気	生育順調も、上級茶の在庫過多で新茶相場は弱含みか
製 茶	● → ●	<p>(現況)・1～3月の製茶問屋の売上は、低迷から抜け出せないまま前年並みで推移した。葬儀向けや贈答需要が振るわない中、とくに高価格帯の動きが鈍い。家庭向けは、大手スーパーなどへの販売が伸びている。</p> <p>(見通し)・冬場に適度な雨が降り、本県の新茶生育状況は順調。鹿児島では、生育が遅れ気味の産地もみられる。一方、上級茶を中心に流通在庫が過多となっており、仕入量を減らす製茶問屋がありそう。直前の凍霜害など減産要因がなければ、新茶相場は弱含みで推移するとみられる。</p>

業種	業界天気	ツナ缶生産量は、反動減のあった前年をやや上回る見通し
食 品 ・ 飲 料	● → ●	<p>(現況)・1～3月の県内の食料缶生産量は、前年を下回った模様。主力のツナ缶は、消費増税前の駆け込み需要に対応した前年からは落ち込んだとみられる。飲料缶の生産量も同様に前年を下回った。</p> <p>(見通し)・4～6月の県内の食料缶生産量は、前年を上回る見通し。主力のツナ缶は、反動減で落ち込んだ前年をやや上回るとみられる。ただし、販売量の大きな好転は期待できず、プラス幅は限定的となりそう。飲料缶は、反動減の大きかったミネラルウォーターや緑茶などが前年を上回るとみられる。</p>

業種	業界天気	トイレ紙など、値上げ定着へ正念場
家 庭 紙	○ → ○	<p>(現況)・1～3月の家庭紙の生産量は、消費増税前の駆け込み需要で盛り上がった前年は下回ったものの、平年水準を確保した。コストは上昇し、収益面は厳しい状況にあるが、業務用需要の増加などでトイレ紙は堅調だった。</p> <p>(見通し)・4～6月の家庭紙生産量は、前年並みとなる見通し。トイレ紙は、大手メーカーが先導する形で価格修正が進められており、定着に向け正念場を迎える。生活必需品だけに需要は底堅く、値上げが定着し、ガス料金が春をピークに下落すれば、現下の厳しい経営状況からの脱却も見込める。</p>

業種	業界天気	段ボール原紙は円安や古紙不足が収益を圧迫
産 業 用 紙	● → ●	<p>(現況)・1～3月の産業用紙の生産量は、駆け込み需要で伸長した前年を下回った模様。段ボール原紙は、通販向けや加工食品向けが堅調だが、原料となる古紙の不足や、燃料費の高止まりによりコストは上昇している。</p> <p>(見通し)・4～6月の産業用紙の生産量は、前年並みの見通し。段ボール原紙は、主力の加工食品向けで底堅い需要が見込めるが、円安や古紙不足によるコストの高止まりは収益を圧迫しそう。白板紙は、ここ数年続く包装簡略化の逆風を、コンビニ向けや医薬品向けの増加でどこまで軽減できるか。</p>

○ 好調 ○ 順調 ⊙ 普通 ● 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	内・外需とも堅調、前年実績を確保する見通し
工作機械	☀ → ☀	(現況)・全国および県内の受注額は、前年実績を+20%程度上回って推移した模様。外需は、欧州向けや米国向けが伸びを欠いたものの、主力のアジア向けが好調を維持、内需も自動車向けが堅調で、ともに前年を+20%近く上回った。 (見通し)・全国および県内の受注額は、ともに高水準だった前年実績は確保しそう。外需は、アジア需要が引き続き堅調に推移すると見込まれ前年並みを確保するとみられる。内需も、ものづくり補助金による設備投資マインド向上が後押しして、大きな落ち込みはない見通し。

業種	業界天気	低調だった前年をやや上回って推移する見通し
民生用電器部品	⊙ → ⊙	(現況)・家庭用エアコンの出荷台数は、消費増税前の駆け込み需要で高水準だった前年こそ▲2割程度下回ったが、例年並みの実績は確保した模様。また、冷蔵庫の出荷台数も、前年の反動減で、前年を▲2割程度下回った。 (見通し)・家庭用エアコンの出荷台数は、消費増税後の反動で落ち込んだ前年水準を+1割程度上回って推移する見通し。また、冷蔵庫の出荷台数は、消費増税後に落ち込んだ前年実績を確保する見込み。これに伴い、部品メーカーの受注量は前年をやや上回るとみられる。

業種	業界天気	前年が高水準だったこともあり、国内生産は前年をやや下回る
自動車部品	☁ → ☁	(現況)・国内の自動車生産台数は、前年を▲1割弱下回った模様。生産水準は決して低くはなかったが、消費増税前の駆け込み需要がピークを迎えた前年実績には達しなかった。部品メーカーの出荷高も前年を下回って推移した。 (見通し)・国内の自動車生産台数は、前年をやや下回って推移する見通し。前年同期は、消費増税後もバックオーダー分の生産が続いていたほか、この4月から軽自動車税が増税になったこともマイナス要因。部品メーカーの受注量も、前年をやや下回る見込み。

業種	業界天気	北米市場が堅調で、国内生産は前年並みで推移
二輪車部品	☂ → ☂	(現況)・1～3月の全国完成車生産台数は、前年を▲1割程度下回って推移した模様。東南アジアなど新興国向けが振るわなかったほか、国内市場も前年を下回った。県内部品メーカーの生産量は、前年比微減で推移した模様。 (見通し)・4～6月の全国完成車生産台数は、ほぼ前年並みの水準で推移する見通し。新興国向けは依然として弱含みそうだが、新型車の投入が見込まれる国内および北米市場で堅調に推移するとみられる。県内部品メーカーの生産量は、概ね前年実績を確保できる見通し。

☀ 好調 ○ 順調 ⊙ 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	公共は早期発注に期待、民間は設備投資が堅調に推移か
建設	○	(現況)・公共工事契約額は、前年を下回った模様。高規格道路工事の発注で好調だった前年の反動で、国関連が減少した。民間の工事費予定額は、前年伸びた製造業、運輸業の設備投資が振るわず、前年を下回った模様。
	→	(見通し)・公共工事契約額は、前年を上回る見通し。公共施設の新設や改修、道路整備などの案件で早期発注が予想されている。民間の工事費予定額は、大手メーカーによる内陸部への拠点集約をはじめ、企業の設備投資が堅調に推移するとみられ、前年を上回る見込み。

業種	業界天気	持家は省エネ住宅ポイントの恩恵を受けて増加見込み
住宅	☁	(現況)・新設住宅着工戸数は、前年を▲1割程度下回った模様。県東部で大型分譲マンションが着工するなど、分譲は前年を上回って推移したが、持家や貸家は、消費増税前の駆け込み需要で伸びた前年の反動もあり低調だった。
	→	(見通し)・新設住宅着工戸数は、前年をやや上回る見通し。省エネ住宅ポイントの開始を受け、住宅展示場への来場者は前年を上回るペースで推移しており、持家の伸長が期待される。一方、貸家は供給過剰感があり、分譲もしばらく在庫調整が続くそうので、着工戸数の伸びは限定的とみられる。

業種	業界天気	所得環境の改善に伴う消費マインドの回復に期待
大型小売店	☁	(現況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年を▲2割程度下回った模様。百貨店は、前年が消費増税前の駆け込み需要から高水準になった反動を受け、高額品を中心に大きく落ち込んだ。総合スーパーも、冬物衣料が伸びなかった。
	→	(見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや上回る見通し。百貨店は、所得環境の改善による消費マインドの回復が期待されるほか、前年低調だった主力の衣料品や化粧品の持ち直しが見込まれる。一方、総合スーパーは、生活必需品に対する消費者の節約志向が根強く、厳しい環境が続くそう。

業種	業界天気	低水準だった前年実績は上回る見込み
食品スーパー	☁	(現況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや上回った模様。日配品や調味料の値上げで一部に買い控えの動きがみられたものの、畜産品などの生鮮品で相場の高止まりが続いており、売上を押し上げた。
	→	(見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや上回る見通し。4月以降も乳製品や調味料の値上げが予定されており、消費者の節約志向が続くそうだが、消費増税前の駆け込み需要の反動で低調だった前年の水準は上回って推移する見込み。

○好調 ○順調 ⊙普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	エコカー減税の厳格化が販売の逆風に
自動車販売	● → ●	<p>(現況)・県内の乗用車販売台数は、前年を▲1割程度下回った。軽自動車税の増税を踏まえた前倒し購入の動きもみられたが、前年水準には至らず、登録車も2ケタ減となるなど、全体としては前年の駆け込み購入の反動が大きく響いた。</p> <p>(見通し)・県内の乗用車販売台数は、前年をやや上回る見通し。消費増税前の駆け込み需要の反動で落ち込んだ前年水準は上回るとみられるが、4月以降はエコカー減税の基準が厳格化され、ハイブリッド車などを除けば消費者の負担増につながる公算が高く、販売の逆風となりそう。</p>

業種	業界天気	消費増税後の反動で落ち込んだ前年水準をやや上回る見通し
家電量販店	● → ●	<p>(現況)・薄型テレビの販売額は、デジタル・アナログ変換サービス終了に伴う需要増加で、前年実績を確保した。生活家電は、前年が消費増税前の駆け込み特需で高水準だった反動で▲3割程度下回り、家電販売額全体は前年を▲2割程度下回った。</p> <p>(見通し)・薄型テレビの販売額は、4Kテレビや大画面モデルへの底堅い買い替え需要が見込まれ、前年水準を維持する見通し。また、エアコンや冷蔵庫などは、消費増税後に需要が落ち込んだ前年水準を上回るとみられ、家電販売額全体は前年をやや上回って推移する見込み。</p>

業種	業界天気	トラック輸送量は横ばい推移、倉庫は前年水準を確保
運輸・倉庫	● → ●	<p>(現況)・トラック輸送量は、紙・パルプ、食料品などは増加したが、ウエイトの高い輸送機械が減少し、全体では横ばいとなった模様。普通倉庫の入出庫高は、主力の電気機械や飲料の荷動きが鈍く、前年をやや下回って推移したとみられる。</p> <p>(見通し)・トラック輸送量は、業種によってばらつきはあるものの、総じて横ばいで推移すると見込まれる。燃料価格は、緩やかな上昇傾向にあり、収益的に厳しくなりそう。普通倉庫の入出庫高については、主力の電気機械や食品関連の荷動きに期待がかかり、前年水準は確保できる見通し。</p>

業種	業界天気	ソフト開発が堅調に推移、首都圏からの受託案件も見込む
情報サービス	○ → ☀	<p>(現況)・1～3月の全国の売上高は、主力の「ソフト開発」が堅調に推移し、前年をやや上回った模様。県内も、サービス業向けのほか製造業や金融・保険業向けが好調で、首都圏からの受託案件も増え、前年をやや上回ったとみられる。</p> <p>(見通し)・4～6月の全国の売上高は、前年をやや上回る見通し。主力の「ソフト開発」が引き続き堅調に推移するとみられ、マイナンバー関連の業務も出てきそうで、繁忙が続く見込み。県内では、首都圏から多くの受託案件を見込んでいるが、一方でSEが不足しており、人材の確保が課題となりそう。</p>

○好調 ○順調 ①普通 ●低調 ☂不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	消費増税の反動増で、売上高はプラス
外食	● → ●	(現況)・主要外食店の売上高は、前年を下回った模様。異物混入問題や就労環境問題で、業界をけん引してきた大手チェーン店の売上高が減少したことが響いた。しかし、それ以外の飲食店は、景気の緩やかな回復を受けて堅調な推移を見せた。 (見通し)・主要外食店の売上高は、前年をやや上回る見通し。消費増税による落込み分の反動増が見込めることや、春闘での賃上げもプラスに作用する見込み。地方創生関連のプレミアム商品券に関しては、このチャンスを狙って券面と同額の限定メニューを作成する店舗が増加する模様。

業種	業界天気	県西部では浜名湖花博の反動減が避けられず
観光・レジャー	● → ●	(現況)・県内主要旅館の総売上高は、前年を上回った。例年よりも寒い日が多かったため、県内で早咲きの梅や花が楽しめたことがプラスに作用した。ただし、3月後半は北陸新幹線が開業した影響で伸び悩んだ。 (見通し)・県内主要旅館の総売上高は、前年を下回る見通し。消費者の旅行マインドは明るく、伊豆地区の宿泊需要は底堅く推移する模様。しかし、西部地域は、昨年129万人を集めた「浜名湖花博2014」の反動減が避けられず、新幹線が開通した北陸や、世界文化遺産が登録予定の九州が注目を集めそう。

業種	業界天気	設備投資マインドの高まりから、幅広い業種で案件増に期待
リース	● → ●	(現況)・県内のリース件数・契約高は、前年同期が駆け込み需要の影響で高水準だったことから、前年実績をやや下回って推移した模様。案件獲得のための低レート競争が激化しており、収益面では厳しさが増した。 (見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年並みの水準は確保するとみられる。これまで需要を下支えしてきた太陽光発電などの環境関連案件は一服感がみられるものの、設備投資マインドの高まりから、製造業だけでなく非製造業を含めた幅広い業種で案件増加が期待される。

業種	業界天気	営業や販売で高い需要、SEや介護関係では人材確保が課題
人材派遣	○ → ○	(現況)・1～3月の県内の実働派遣労働者数は、前年を+5～10%上回ったとみられる。営業業務、販売業務で需要が高く、製造業務も、消費増税前の駆け込み需要があった前年水準こそ下回ったが、底堅く推移した。 (見通し)・4～6月の県内の実働派遣労働者数は、前年をやや上回って推移する見通し。景気回復への期待から、営業、販売、製造、IT分野などで高い需要が見込まれる。一方、供給サイドでは、SEや介護関係を中心に供給不足が続くと予想され、人材確保に苦労しそう。

○好調 ○順調 ⊙普通 ●低調 ☂不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

ウォッチング

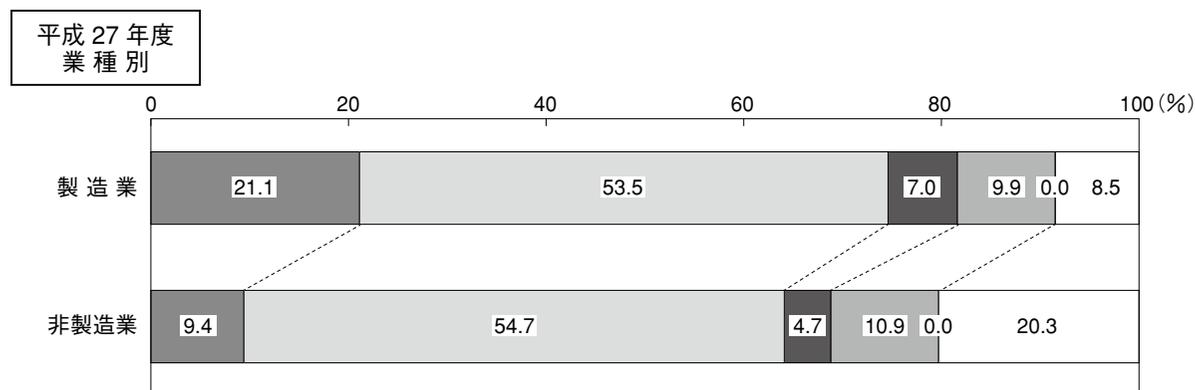
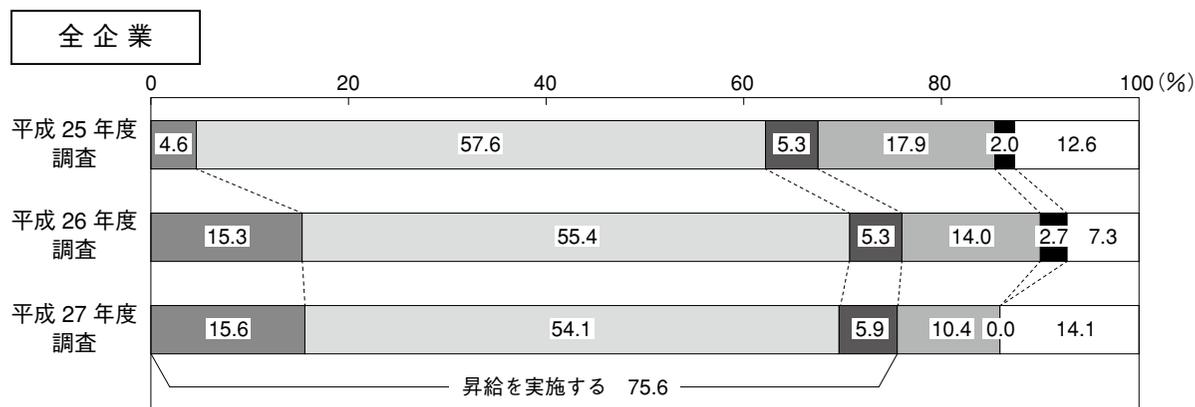
2年続けて75%超の企業で昇給実施の見込み

県内企業に、今年度の昇給（賃上げ）に対する方針を聞いたところ、昇給を実施する（「昨年より高い昇給」、「昨年並みの昇給」、「昨年より低い昇給」の合計）と答えた企業は75.6%（前回調査76.0%）と7割超に上った（図表）。「昨年より高い昇給」の割合は、平成18年度に11.7%に上って以来、長く低水準にあったが、昨年度、今年度と2年続けて、平成8年の調査開始以降で最も高い水準を更新しており、賃上げ機運が盛り上がった昨年度をさらに上回る賃上げ意向がうかがわれる。

一方、「未定」とする企業は14.1%と前回調査（7.3%）比で+6.8ポイント増加しており、厳しい経営環境や先行き不透明感などから対応を決めかねている企業も増えている。とくに非製造業で様子見の企業が多く見受けられる。

業種別では、昇給実施企業の割合は製造業81.6%、非製造業68.8%と差がみられた。円安が業績向上の追い風となった製造業がけん引し、とくに「昨年より高い昇給」は製造業21.1%、非製造業9.4%と11.7ポイントの差が開いた。一方、「未定」とする企業は製造業8.5%に対し、非製造業では20.3%と5分の1に上り、なかでも運輸・通信業や旅館・ホテル業、建設業などでその割合が高かった。

図表 今年度の昇給（賃上げ）の見通し



■ 昨年より高い昇給 □ 昨年並みの昇給 ■ 昨年より低い昇給 ■ 昇給見送り ■ 賃下げを検討 □ 未定

調査要領：調査時点平成27年3月、調査対象企業数308社、回答社数135社、有効回答率43.8%